

先日、毎年一回家内共々短期旅行をしている同期 3 組を 5 師団管内の観光案内をした。心配していた雨も何とか切り抜けながらの、駆け足ではあったが、それでも極めて印象深い旅であった。

帯広を朝早く出発して、網走駅で昼頃 3 組の同期と久々の再会し、近くの網走監獄に向かう。今年の 2 月、流氷観光船オホーツクに乗船した日に短い時間ではあったが訪れたことは合った者の、自衛隊OBの方の解り易い解説を聞きながらの見学は有益であった。現在の国道 39 号線は明治時代中央道と呼ばれ、網走監獄の囚人の過酷な労働の賜物であり、その過酷さの証の人骨が発見されることもあるという。今の刑務所は処遇はかなり改善され、昔日の面影はなかろう。重労働と気候条件の厳しさ、そして一人当たりのスペースが一畳程度という房の状況等に耐えかねて脱獄を図った者もかなりとのことであるが、近年は耐えて久しいという。

監獄を後にして東藻琴の芝桜公園に向かう。総勢 10 名であったので、団体扱いでの入場となる。滝の上の芝桜に比較すれば面積こそ狭いものの全体を一望に収めることが出来、色とりどりの芝桜が雨に濡れ、かなり強い香りを辺り一面に漂わせていた。明後日には芝桜祭りが行われることとなっていた。当公園の芝桜は植栽を始めて 30 年近くになるとのことであるが、夙に有名になったのは、高々 10 年ぐらいの由。村章で有ろうか、色違いの芝桜で一段と大きく中央に配置されたが、近くからよりも遠くから全体を眺めた方がその素晴らしさが際だつ。

硫黄山に行く予定を摩周湖を見たいという女性陣の要望を聞き入れて、急遽変更、小雨降る中、霧に覆われて正に霧の摩周湖であって湖水を臨めるのは絶望的だろうと観念しつつも、一路摩周湖に向かう。ところが、何たる幸い、我等が第 3 展望台に降り立って見ると、微かに霧がたなびく程度で湖水が全貌出来るではないか。一頻りシャッターの音が喧しかった。4 組それぞれが相合い傘で湖をバックに記念撮影だ。

阿寒道路では残念ながら鹿を多数見ることは出来なかった。近年、鹿害が多く、駆除してもなかなか適正個数に減らないのだそうだ。さて、阿寒湖畔の宿での賑やかな夕食会を終えた翌朝は、曇天であり、祈るような気持ちで釧路湿原に向かう。途中旧知の者に出会うが、突如バケツをひっくり返したような通り雨（と言うのは、ものの 1 km も走らぬうちに雨は止んだ）だった。塘路湖から約 8 km のカヌー川下り、前後に乗船しておぼつかぬ手で漕いで行く。方向は、支援してくれたガイド役にお任せ、時に手を休め、川面を走る風の音を聞き、釣り人との対話を楽しみつつ、名を知らぬ鳥の囀りに耳を恃て、番の鶴の優雅な舞いに酔いしれる。釧網本線釧路塘路湖間を日本一の鈍足を誇るノロッコ号の通過時間にタイミングを合わせてくれたガイド役の諸官の心遣いが有り難い。童心に返り、ゆっくり走るノロッコ号の乗員・乗客に懸命に手を振り、彼等からも共感が帰ってくる。

細岡展望台に上って、下ってきた釧路川と湿原を眺め渡す。雄大なり。キャンプ場に前進して、今朝昆布森の海で採取した新鮮な魚貝類のバーベキューを堪能した。地元では、「時知らず」と呼ばれるアムール川に帰る途中の脂ののった鮭のホイール焼きは最高に美味しかった。仕事した後のビールも最高であった。

後はひたすら、車中の人となり、帯広着。翌日は、天候にも恵まれ、男共はゴルフ、夫人達は紫竹ガーデン・中札内の美術村の見学と分かれての行動、全てが計画通りに終了し、任務終了であった。何れにしろ、晴れ男の小生でも緊要な時期には雨を巧みに避けての小旅行であった。

